



私学の振興と文化の向上

くしま よじろう
九島 輿治郎

(79歳)

住所

北秋田郡鷹巣町

九島氏は、大正5年以来30年の長きにわたり、教員、校長として子弟の教育に尽

くした後、昭和25年には学校法人鷹巣女子学院を創立してその経営にあたり私学の振

興に努めるなど、本県教育の向上発展に尽力した。

また、大正13年に、北秋時事新報を創刊、昭和29年には秋北新聞として再刊、以来

同社の経営にあたるとともに、報道、論説等を通じて本県文化の振興に大きく貢献し

た。



漆器産業の振興

きた じま さぶ ろう
北 島 三 郎

(78歳)

住所
本荘市

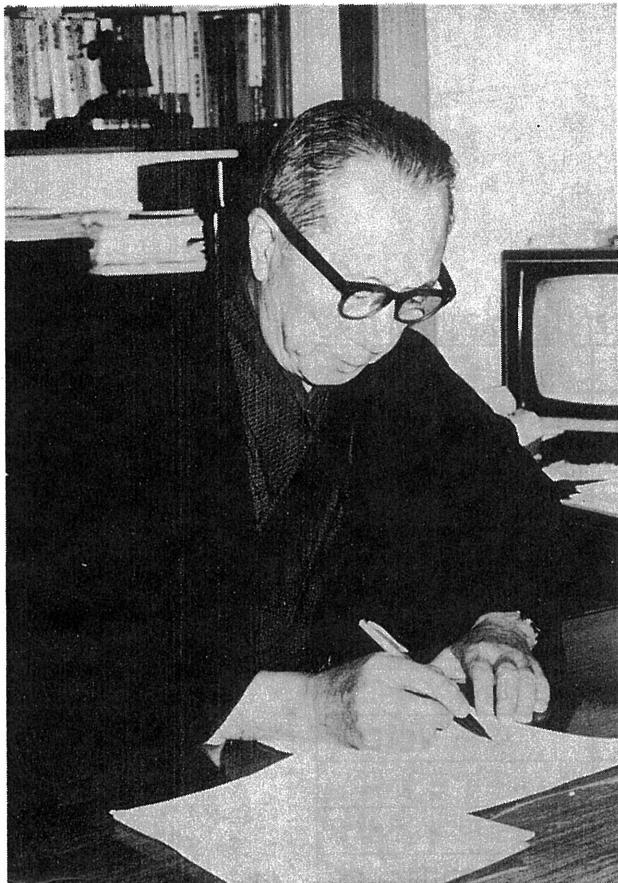
北島氏は、大正5年以来、漆器の製造に従事しながら技能の研さんに精励し、本荘

塗の菊花紋彫を考案するなど、卓越した技術をもって意匠の工夫、品質の改善に尽力

するとともに、身体障害者に対し漆器及び一般塗装の技術指導を行うなど福祉の向上

にも尽くした。

さらに、本荘市工芸品展の創設に参画、特産品の発展と紹介に尽力するなど、本県の漆器産業の振興に大きく貢献した。



文化の向上と社会教育の 振興

ふじ 藤 た けい 溪 ざん 山

(73歳)

住所

秋田市

藤田氏は、僧職にあるかたわら、秋田放送放送番組審議会委員長として放送文化の

向上に尽くしているほか、県演劇文化協会長として8年間にわたり演劇活動の指導推

進に尽くすとともに、若い世代による郷土芸能活動の育成に努めている。昭和10年に

は雑誌「叢園」の創刊に参画、また、秋田ヒューマンクラブ会長として機関誌「原点」の

刊行にあたるほか、各地の社会教育関係団体を対象とした講演やラジオ、テレビの出

演など、広範な活動を通じて社会教育の振興に寄与するとともに本県文化の発展に大

きく貢献した。



商業美術の向上と産業の振興

高橋 良一

(良)

(71歳)

住所

東京都

高橋氏は、商業デザイナーとして、郷土である本県出身の多数の後進を指導すると

ともに、長年にわたり秋田県美術展、秋田魁新報社デザインコンクールなどの審査員

をつとめ、新人の発掘育成に努めたほか、在京秋田美術会の幹事として、県出身美術

家の代表作を紹介するなど、本県美術の発展に寄与した。

また、秋田国体をはじめ、農業大博覧会、県勢展などのポスター、プログラムの製

作から会場の設計等に参画、その成功に大きく貢献した。さらに、銀線細工、印刷、

製菓などの技術指導等を通じて本県の産業の振興にも寄与した。



書道の普及、向上

いし だ かつ ろう
石 田 勝 郎

(白 樹)

(70歳)

住所

秋田市

石田氏は、長年にわたり県立秋田高等女学校、秋田大学などで書道の教鞭をとると

ともに、日本書道教育学会審査員として、本県の書道教育に大きく貢献した。

また、昭和11年赤星藍城が主宰した「斗南会」同人として芸術書道を主唱、さらに

秋田魁書道展の設立に参画し、無鑑査、審査員として後進の指導に尽力されるととも

に、県総合美術展、県展、県書道連盟の設立に参加し、その育成に尽くした。



文化の向上と民俗芸能の 振興

故 中 塚 富之助

御遺族住所

秋田市

故中塚氏は、昭和13年秋田魁新報社に入社して以来、一貫して新聞、放送事業に専念、マスコミを通じて地域社会の発展に貢献されるとともに、秋田魁新報社文化部長時代より培った幅広い見識をもって、美術、文芸、芸能、技芸など数多くの文化団体に関与し、とくに、民俗芸能協会を創立して県内をくまなくまわり民俗芸能の保存、伝承に努めたほか、郷土芸能を生かしたラジオ、テレビ番組を数多く制作するなど、本県文化の向上に大きく貢献した。



桜皮細工産業の振興

佐 藤 省一郎

(62歳)

住所

仙北郡角館町

佐藤氏は、昭和10年以来桜皮細工業に従事しながら技能の研さん努め、卓越した

技術により後進の指導育成にあたるとともに、桜皮細工の伝統を守りつつ、製作技術の向上に尽くした。

また、そのすぐれた作品を各種の展覧会に出品して優秀な成績をおさめ、国画会会員となって桜皮細工の独特的美しさを全国に紹介するなど、本県産業の発展に大きく貢献した。